

第IV期 第10回 国立天文台科学戦略委員会議事抄録

日時：2025年7月14日（月） 13時00分～14時03分

場所：国立天文台大会議室、Zoom

出席者：

（台外）秋山正幸委員（Zoom）、高橋慶太郎委員（Zoom）、濤崎智佳委員（Zoom）、戸谷友則委員（Zoom）、堀田英之委員（Zoom）、渡邊誠一郎委員（Zoom）

（台内）生駒大洋委員、齋藤正雄委員、都丸隆行委員（Zoom）、竝木則行委員、藤井友香委員（副委員長）、本原顕太郎委員（委員長）

欠席者：

（台外）高田昌広委員、石原安野委員

（台内）井口聖委員、吉田道利委員

陪席：

（台外）運営会議：河野孝太郎委員、住貴宏委員（Zoom）

（台内）堀久仁子特任専門員（Zoom）、金子修研究推進課長、大内香織研究支援係長

1. 確認

1.1 国立天文台科学戦略委員会名簿および出席者確認

本原委員長から、出席者の確認を行った。

1.2 第9回議事抄録の確認

本原委員長から、6月23日に開催された第9回国立天文台科学戦略委員会の議事抄録（案）について説明があり、承認された。

2. 報告と議論

2.1 2025年度将来シンポジウムについて

本原委員長から、2025年度将来シンポジウムの実施計画及びプログラム案について前回委員会の議論に基づき更新したものの説明があった。

シンポジウムのSOCについて、本委員会の委員長・副委員長のほか各コミュニティ枠の委員、及び運営会議も務める委員により構成する案が示され、当該案をベースとしてサイエンスロードマップ（以下、SRM）の文章作成の分担と併せて検討することとした。

また、シンポジウムのタイトルを「国立天文台サイエンスロードマップ策定と実施計画に向けて（案）」として今後の準備を進めることについて合意された。

議論の結果、10月中にSRM原案をコミュニティ等に提示し、事前に意見を整理してもらうことを依頼することとした。

（主な意見交換）

ーシンポジウムでコミュニティの将来計画を説明してもらう。SRMの素案に対してインプットがあるかを確認するためである。

ーシンポジウムのタイミングはSRM策定の最終段階である。コミュニティの将来計画を

聞くことは大事だが、全般的な説明ではなく、各提案のコミュニティ内での優先順位を聞くことなどにフォーカスするのがよいのではないか。

ーこれまでの議論では、シンポジウムの前に **SRM** の素案を示したうえで、各コミュニティ、国立天文台のセンター、プロジェクトから意見を出してもらうことになっていた。どのような観点からの意見をもらうかを明確にしたうえで、的確な意見を比較的短時間でもらえるよう工夫してはどうか。

ーコミュニティ内の優先順位をどう取り込むが、**SRM** に書かれているプロジェクトからどのような情報が必要かなど、ある程度具体的な話をして実施計画策定のフィードバックをもらうことを考えている。

ー太陽研連ではコミュニティ内の優先順位は未だ決まっておらず、**SRM** のスケジュールに合わせられる雰囲気は無い。**SRM** への意見もコミュニティの中で意見集約が必要であり、シンポジウムで話をしてもらうのは難しい状況である。

ー現在、アメリカを中心に実施する大きな国際プロジェクトは先行きの見通しが立たない状況であり、コミュニティ側も様子を見たいという部分もある。**SRM** の検討を開始した時とは境界条件が変化しており、そこを曖昧にして実態と合わない形だけの **SRM** を作成するのでは意味がない。

ー**SRM** を作成する際には、コミュニティの運営委員会などとインタラクションをしても問題無いか。それが出来るのであれば非常にやりやすい。

ー**SRM** の文章は、委員の中で担当を決めて原稿をまとめる形で進めることを考えている。そのプロセスの中で、コミュニティの関係者に意見を聞いてまとめることは問題無いと考えている。

ーシンポジウムの中でコミュニティ毎にブレイクアウトセッションを設けてその場で意見を収集するのはどうか。代表者による意見の集約は困難だろうが、その場で出た意見を紹介するのであれば問題無く言える可能性がある。

ー時間を掛けて議論していく段階では有効だが、この段階では事前に **SRM** 原案を提示し、予めコミュニティやセンターに意見を整理してもらい、シンポジウムの後で文章を送ってもらうことで意見を集約していく方が本委員会としては作業が容易である。

ー**SRM** へのフィードバック、コミュニティの将来計画の検討状況の共有の 2 点はシンポジウムで必ず行ってもらう必要がある。10 月中に **SRM** のドラフトを提示し、事前にコメントが欲しいということをコミュニティに予告することとしたい。

ーシンポジウムでは、提案者側で事前に整理してもらった **SRM** に対する意見を紹介してもらうセッションは必要である。提出された意見は全員が確認できるようにした上で、時間の制約がある以上、特に議論が必要なポイントを 10 件程度ピックアップしてプレゼンしてもらうのはどうか。

ープロジェクトにプレゼンしてもらう場合は陳情合戦にならないか心配である。収集した意見をどうプレゼンするかについては次回以降の委員会で引き続き議論することとしたい。

ーシンポジウムまでに国際情勢が大きく変化している部分もある。そのあたりを整理して現状を知ってもらうことも重要である。

ーアメリカの動向も含めてということかと思う。台長から国立天文台の現状という中で説明してもらうのがよい。

ーシンポジウムの期間について、前回の4日間は長いという声もあった。短くコンパクトに開催し参加者の負担を軽減するという観点も重要である。

2.2 タウンミーティング

2.2.1 日程の確認

本原委員長から、タウンミーティングを9月後半に2回開催し、時間帯は昼休憩の1時間として日程調整を行う旨のアナウンスがあった。また、タウンミーティングの開催目的はSRMの概要紹介及び実施計画策定手続きの紹介とすることを確認した。

2.2.2 プレゼン資料素案の確認

前回委員会から引き続き、タウンミーティングでのプレゼン資料として、本原委員長から、将来計画策定プロセス、齋藤委員から、実施計画策定手続きについての資料案について説明があった。資料については次回委員会で最終版の確認を行ったうえで、9月17日開催の運営会議に諮ることとした。

以上